

# Nagano Nippo

## 第25回赤彦忌 秋田県角館高OBも墓参

掲載日時 2012 3 28 6:00:00 | トピック：文化

アララギ派歌人、島木赤彦（1876～1926年）の命日の27日、「第25回赤彦忌」（下諏訪町、同町教育委員会主催）が同町の諏訪湖博物館・赤彦記念館で開かれた。赤彦が最晩年に作詞した校歌のある秋田県角館高校（仙北市角館町）の卒業生26人も訪れ、赤彦の遺徳をしのんだ。

昨年の「赤彦忌」で同校の校歌が歌われたことを知った同校同窓会東京若杉会会長の橋本清さん（73）＝東京都世田谷区＝が発起人となり計画。仙北市の若杉会本部会長の高橋雄七さん（73）らに呼び掛け、実現した。町内の赤彦の墓を訪ねたあと、式典に臨み、前回、校歌を披露した地元の「赤彦童謡を歌う会」と校歌を大合唱した。

橋本さんは「校歌は常に誇りに持ち歌い続けている」と話し、「来年もぜひ来たい」と感激。高橋さんも墓参を終え「病気をおして作詞してくれた赤彦先生にこれで恩返しができる」と喜んだ。赤彦は亡くなる前年の25年秋に角館町を訪問、作詞を始めたとされる。同校の校章は赤彦と親交のあった平福百穂が若スギを図案化している。

式典では赤彦童謡朗読の会の小学生が赤彦が作った童謡を朗読、湖北岳心会が赤彦の短歌を吟じ、赤彦童謡を歌う会が童謡を歌い紹介した。恒例の記念講演会もあり、江戸川大学の新井正彦教授が「百穂と赤彦」の演題で話し、初めて赤彦忌に訪れた百穂の次男夫人、平福久子さん＝東京都＝も聴講した。